

鋼構造環境小委員会 2012年度第3回議事録

日 時： 2012年10月26日(金) 16:00～18:15
場 所： 建築会館会議室 305号
出席者： 藤田(正), 緑川, 岩田, 長尾, 木村(衛), 石原, 小岩, 藤田(哲),
木村(麗), 瀧, 松元, 岡崎, 兼光 (敬称略)

記録：兼光

資料

- 2012-3-1 鋼構造環境小委員会 2012年度第2回議事録(兼光)
- 2012-3-2 2013年度委員会活動計画案(藤田(正))
- 2012-3-2-1 2013年度予算原案(藤田(正))
- 2012-3-2-2 鋼構造環境小委員会名簿(藤田(正))
- 2012-3-3 2012年度大会 PD 構造部門(鋼構造)目次(藤田(正))
- 2012-3-4 2012年度大会 PD 構造部門(鋼構造)報告案(木村(麗))
- 2012-3-5 CASBEEのリユース材評価の追加提案について(兼光)
- 2012-3-6 鋼構造のリユースガイドブック目次(案)(藤田(正))

議事

1. 前回議事録の確認(資料 2012-3-1)
 - ・兼光より, 資料 2012-3-1 を読み上げ, 了承された。
2. 2013年度委員会活動案(資料 2012-3-2, 2012-3-2-1, 2012-3-2-2)
 - ・藤田(正)主査より, 資料 2012-3-2, 2012-3-2-1, 2012-3-2-2 にて, 2013年度の本委員会活動の説明があった。
 - 〔意見〕
 - ・ガイドブックの出版までには, 査読と出版準備の期間が必要なため, 素案完成から出版まで1年程度は見込んでおいた方がよい。
 - 委員会は2012年4月～2015年3月(3年間)
 - 2年度(～2014年3月): 課題の抽出と目次の作成, 素案の着手
 - 3年度(～2015年3月): 素案の追加・調整, ブラッシュアップ
 - 3年度終了後, 出版のための小委員会を新規に設置する(内容の査読依頼等)。
 - ・資料 2012-3-2-2 の名簿に変更がある場合は, 藤田(正)主査に連絡する。
3. PD報告について(資料 2012-3-3, 2012-3-6)
 - ・木村(麗)委員より, 資料 2012-3-4 にて説明があった。
 - ・建築雑誌 2013年2月号に掲載予定のPD報告案を作成した。締切は2012年10月29日。
 - 本小委員会の意見を参考に修正し, 藤田(正)主査にチェックしてもらい, 提出する。
 - 〔意見〕
 - ・約130名の参加
 - ・パネラーに梶川靖男先生 梶川靖男 に修正する。
 - ・「木村衛・・・まとめを行った。」の部分は, 討論を受けての項に記載することを検討する。
 - ・部材の品質 部材の性能 に修正する。
 - ・品質の確認 部材性能の確認 に修正する。
4. CASBEEへのリユース材評価項目の追加を要望する件について(資料 2012-3-5)
 - ・兼光委員より, 資料 2012-3-5 にて説明があった。
 - ・次回CASBEE改定(2013年4月予定)に, リユース材を評価できる内容を追加するように働きかける。
 - ・具体的には, CASBEE開発委員会資源循環小委員会の次回以降の議事にあげてもらうように, 資源循環小委員会の委員である兼光委員が提案する。

- ・提案内容は、本小委員会の議論を踏まえ、兼光委員が作成する。
- 〔意見〕
- ・「2.2 既存建築躯体等の継続使用」への変更案は、資料 2012-3-5 の通りとする。
- ・「2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用」は変更なしとする。
- ・「2.6 部材の再利用可能性向上への取組み」に、躯体 + 躯体の分解容易性を評価できるように変更案を検討する。
- ・次回の改定は既往の評価項目の変更で提案するが、今後、リユース材の評価を単独の評価項目としてあげてもらえるように、本小委員会で継続的にフォローする。
- ・「低炭素化促進法（都市の低炭素化の促進に関する法律）」（2012 年 9 月 5 日法案成立）に予定されている低炭素建築物の認定制度に CASBEE を活用することが検討されている。また、企業などに同法案のアンケート調査を実施している。 小岩委員より、次回話題提供して頂く

5. ガイドブックの内容について（資料 2012-3-3, 2012-3-6）

- ・藤田(正)主査より、資料 2012-3-3, 2012-3-6 にて、PD を受けてガイドブック目次案の見直しについて説明があった。前回の目次案は資料 2011-3-4。

〔見直し点〕

- ・「2.3 鋼構造の設計法」に記載する内容をブレイクダウン。長尾委員の PD の内容を中心に盛り込む。
- ・「3. リユースと環境負荷」を単独の章で記載。
- ・既往および研究開発段階の要素技術を「4. リユースに関する要素技術」、「5. リユースに適した接合法」で盛り込む。
- ・「6. 実施例」に基礎構造のリユースを盛り込む。

〔議論〕

- ・これからガイドブックを作成するにあたり、はじめに、ガイドブックの読者を特定し、ガイドブックの目的を明確にした方がよい。
- ・読者と目的に合った内容とする。
- ・リユースは、現状ほとんど実施されていない。このことから、ガイドブックの目的の一つに、リユースを促進するための技術開発案などの提示が考えられる。
- ・技術開発案を考えるにあたって、リユースが普及した理想の生産システムと現状の生産システムのギャップを考えるのは有効である。
- ・リユースの促進は一足飛びに進まない。現状の生産システムの改善という形で進める方法も有効であることから、現状の生産システムを分析し、情報提供することは重要である。
- ・現状分析は、PD にて、ある程度まとまったと思うので、今後、リユースを促進する上での課題抽出を行うのがよい。
- ・現状からの改善ということでは、リユースを先進的に事業化している戸建住宅、有期限建築、移築を、さらに促進するにはどのような課題があるかを考えるのもよい。
- ・東京都は、東京オリンピック誘致で、リユースを前提とした施設計画を検討中である。検討の具体例として利用、ガイドブック適用案件の目標として設定するのもよいかもしれない。

6. 次回の予定

- ・12月14日（金） 16:00-18:00
- ・議題： 藤田(正)主査より、各担当委員に要請予定。
- (1) 戸建住宅におけるリユース促進のための課題（松元委員）
- (2) 有期限建築におけるリユース促進のための課題（瀧委員）
- (3) 仮設杭のリユースガイドラインについて情報提供（小岩委員）
- (4) 低炭素建築認定制度について情報提供（小岩委員）
- (5) CASBEE への提案フォロー（兼光委員）
- (6) 本日の議論を受けてのガイドブック目次整理（藤田(正)主査）